

多員のひろば

うれしい電話なりやまず

美唄歯科医師会会員 雨田 実



『美唄歯科医師会50年のあゆみ』の発刊を見たので、日本歯科医師会をはじめ、道内の各歯科医師会、関係官庁などなどの他、元会員（元会員でご他界された先生のご家族のかたがた）を含めて美唄歯会ゆかりの各位に贈らせていただいたところ、幾日も経ない12月7日早朝から電話が鳴ることしきりであった。大部分はお礼のものであったが、他界された先生の奥様とか後継者の息子さんからの懐かしいものであり、つつい話が長くなってしまい他界された先生の生前の思い出などを話しているうちに、自然と涙声が聞こえたりして、感謝されているこちらまで胸が熱くなってもらい泣きをするひと幕があったりして、会史編纂中の数多の苦勞が一度に消し飛んでしまった。

「佛前に供えさせていただきました。久々に良い供養をさせていただきました。末長く後々まで家宝として大切にいたします」とまで感謝されると、自ずとこみあげる胸の高まりを、いかんとも致し難い気持でいっぱいになってしまった。「美唄を知らない孫達にも読ませる心算です」などなど、まこと涙なしには聞くことの出来難いことばかりで、家族から眼が真っ赤ですと受話器を置いた時に幾度も耳にした数日間であった。こんなに感謝して喜んでいただけるのなら、40年前の昭和37年にどんなに苦勞しても、40年会史を発刊させるべきであったのにと、しみしみと悔やまれてならない。もしあの時に発刊出来ていれば、現在故人になられている先生

がたに、ご生前に喜んでいただけたのにと慙愧の念にかられることしきりの数日間であった。

終戦後間のない頃に渡道して以来、随分とお世話になった多くの先生がたや奥様がたに、もしご生前にお贈りしていればと、多くの皆様の笑顔が眼底を去来して、毎日夢ともうつともつかない楽しいというべきか懐かしいというべきかという数日間を過ごさせていただいたことをしみしみと感謝している。夢とは面白いもので、どの先生がたも奥様がたも、お別れした時のままの若々しきで話しかけて下さったり、笑顔で親しく接していただける懐かしい楽しさの境地を味合わせさせていただいたありがたい数日間であった。種々の解しかたがあると聞くけれど、一説によると古代からある人の夢を見ることは、その人の心にこちら（つまり私のこと）を、その人が心に留めていただけた場合に、夢で会っていただけるものという説があると聞いたことがあるけれど、もしその説のとおりなら、ここ数日間の間は随分と多くの美唄ゆかりの先生がたや、そのご家族の方々の心に、小生が存在したことになるけれどその半数以上の方々がすでに他界されている現実を思うとき、今自分自身がこうして生存していること自体が不思議に思えてならない。異次元の世界とのえも言われない、三昧境を心ゆくまで楽しませていただいた。美唄ゆかりの多くの皆様の靈に合掌させていただきます。